

単元名

比べて実感！説得の工夫を読み取ろう

「新聞の投書を読み比べよう」（東京書籍 6年）

本単元で育成する資質・能力

課題発見力

思考力・判断力・表現力

主体性

自己肯定感

1 単元について

【考え・基礎知識】

・投書の構成や根拠の挙げ方について知り、読み方を理解する。

【つながり】

・新聞の投書を読み比べ、説得の工夫を読み取る。

【応用・ひろがり】

・社会参加の方法の一つとしてとらえ、投書を読んだり書いたりすることを通して、責任ある態度で生活することができる。

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領国語のC（第5学年及び第6学年）「読むこと」（1）イ「投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえること。」及び「書くこと」ウ「事実と意見を区別し、投書という目的に応じた工夫を行い、文章を書くこと。」を受けて設定したものである。言語活動は、（2）ウ「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。」に対応する。

本単元では、新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報を基に、教材文の4つの投書を構成や理由付けの仕方、根拠の挙げ方について比較したり関係付けたりしながら読み比べることで、自分の意見に説得力をもたせるための説得の工夫はどの手法が効果的かを考え、理由や根拠を明確にして自分の意見を書く力を育てることをねらいとしている。

本教材は、「スポーツをすることの目的」について書かれた一つの投書に寄せられた三つの投書で構成されている。同じ文章構成で書かれた4つの投書には「経験を述べる」「具体的な数値を入れる」等の説得力を持たせるための工夫が示されており、自分で投書を書く際にも活用することができる。本単元でつけたい、書き手の説得の工夫について読み取った力を生かしながら自分の考えが読み手に伝わるように構成を工夫し、理由や根拠を明確にして投書を書くことにつながる教材として適している。

【児童観】

児童は、同系統の前単元である「イースター島にはなぜ森林はないのか」で、事実と意見との関係に注意して、筆者の考えを読み取ったり、文章に対し自分の考えを持ったりすることを学んでいる。「事実と意見との関係に注意して筆者の考えを読み取る」ことについては95%の児童ができると答えている。6年生になって小説を読むようになったなど、全体的に読書好きな児童が多く、そのことが読むことを肯定的に捉えることにつながっていると考える。

本単元に関わる児童アンケートでは、70%の児童が新聞を読んでいると、概ね新聞に親しんでいることがわかった。新聞の投書について知っているという児童はわずか13%であったが、本アンケートを通じて新聞を読むことや投書について興味・関心を持つことができた児童もいる。

書くことについては、行事ごとに400字程度の感想文を書いているが、投書を書くというのはほとんどの児童にとって初めての経験である。

昨年度の「基礎・基本」定着状況調査の「読むこと・書くこと」に関わる「情報の取り出し・情報を関連付けた記述・理由や事例を挙げた記述」等の通過率は約20%であった。全体として目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む力や目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書く力が十分に身に付いていない。

【指導観】

本単元では、総合的な学習の時間と関連付け、地域の防災行事へのスタッフ募集の依頼を受けたことをきっかけに、自分たちが地域から頼られているという喜びや地域の取組を広く伝えたいという思いを伝える方法として投書に出合わせ、その書き方を教科書や地域の投稿経験者、新聞社の方から学び、自分の意見を説得の工夫を取り入れて書くことを身に付けさせることをねらいとしている。

第一次の「課題の設定」の場面では、様々な年齢層やテーマ、また複数の新聞社の投書を紹介し、投書のもつ魅力や効力を伝える。実際にさまざまなジャンルの新聞の投書を読んで読み、書き手の工夫についての気付きを話し合うことを通して、投書を書きたいという意欲と自分たちの知識・技能のズレを感じ、投書の書き方を知るといふ本単元の学びの必然性に気付かせる。「情報の収集」の場面では、教材文を読み比べ、4人の書き手が読み手を説得するために理由付けの仕方や根拠の挙げ方を工夫していることや段落ごとに色分けをして囲むことで視覚的に4つの投書の文章構成が同じであることに気付かせる。「整理・分析」の場面では、説得力を増す投書にするために、構成メモを書かせ、それをもとに、他者との意見交換を通して、自分の意見を広げたり、説得の工夫について多面的・多角的に見て自分の考えを深めたりすることができるようにする。また、本単元のゴールである実際に新聞社に投書を投稿し掲載を目指すには、どんな学びが必要かを考え、自由に交流することを通して、「投書についてもっと知りたい、専門家の意見を聞きたい。」という声を引き出し、第二次の学習につなぐ。

第二次の「課題の設定」の場面では、新聞社の投書担当であった地域の方に、投稿作品を選ぶ際のエピソード等を語っていただく。現時点の投書の内容では、掲載される可能性が低いことから、自分の意見をより明確にし、説得力のある理由や根拠を挙げて投書を書き直す必要があるという新たな学びの必然性に気付かせる。後に続く学習場面では、第一次で読み取った説得の工夫と自分の投書の内容をつなぎ、説得の工夫のどの手法が効果的かを考え、理由や根拠を明確にして自分の意見を書かせる。また、書いた投書を友達と読み合い、気付いたことや考えたことを交流する場面を設定し、説得の工夫を取り入れ、自分の意見としての投書を書くというねらいの達成を実感できるようにする。

本単元を通じ、児童の課題である複数の資料から課題解決に必要な情報を取り出し、関連付けて考え力や、目的や意図に応じた考えたことを説得の工夫を取り入れ、文章全体の構成の効果を考えて書く力の育成につながる。また、単元後の国語科の学習としては、二学期の説明文単元「町の未来をえがこう」につないでいく。複数の資料から読み取った情報を目的に応じて活用することや意図を明確に伝えるために資料を効果的に活用して発表することを通して、「読むこと」の力を「話す」「聞く」力につなげ、音声言語における表現力やプレゼンテーション能力の育成を図りたい。

2 単元の目標

- 投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえることができる。【読むこと イ】

- 事実と意見を区別し、投書という目的に応じた工夫を行い、文章を書くことができる。
- 投書の文章の構成を目的とともに理解することができる。

【書くこと ウ】
【伝国 イ(キ)】

3 単元の評価規準

資質・能力 思考力・判断力・表現力	・新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報をもとに、4つの投書の構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方を比較したり関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書いている。		
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
ウ「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む言語活動」を通じた指導			
・新聞の投書について感心を持ち、説得の工夫を読み取り、投書を書くことに意欲を持って取り組もうとしている。	・投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえている。(イ)	・事実と意見を区別し、投書という目的に応じた工夫を行い、文章を書いている。(ウ)	・投書の文章の構成を目的とともに理解することができている。イ(キ)

4 指導と評価の計画(国語 全12時間)

次	時	学 習 活 動	評 価	
			教科の評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
単元前		課題の設定(総合的な学習の時間)「Let's try 防災～今、私たちにできること～」 ・地域の防災の取組について、どのような方法で紹介するとよいか話し合う。		
第一 次	1	課題の設定(国語科) ・投書を書くというゴールに向かう学習計画を立てる。	【関】投書を書くためにはどんなことを、どのような方法をもとにして学ぶことが考えられるのか関心を持っている。(発言・ノート)	まず、書き方についての学習が必要だ。教科書に投書の学習が載っていたよ。
	読み手を説得するために投書の書き方を身に付けることができる。			
	2	情報の収集 ・4つの投書を読み比べ、それぞれの書き手の意見や主張とその理由や根拠を捉える。	【読】それぞれの書き手の意見や主張、その理由や根拠をとらえて、自分の考えを明確にしている。(発言・ノート)	文章構成はどれも話題提示など六段落構成で同じだということがわかったよ。
	3	情報の収集 ・投書を読み、それぞれの書き手が読み手を説得するために工夫していることを読み取る。	【読】構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえている。(発言・ノート)	どの投書にも説得力があるけど、アンケートの数値も説得力があるね。5年の総合の学習で資料の数値を使ってポスターを作ったことを思い出したよ。
	4	整理・分析 ・読み手を説得するために、効果的な理由や根拠を考えて投書の構成メモを書き、グループで意見交換する。	【書】読み手に自分の考えが伝わるように理由を明確にして構成メモを書いている。(発言・構成メモ)	【思考力・判断力・表現力】 ・新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報をもとに、4つの投書の構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方を比較したり関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書いている。(発言・ノート)
	5	整理・分析 ・修正した構成メモをもとに投書を書く。	【書】読み手に自分の考えが伝わるように理由を明確にして構成メモをもとに投書を書いている。(発言・投書)	説得の工夫は引用を使おうと思っていただけ構成メモを書くことによって、経験したことを書く方が説得力が増すように思えてきたよ。
6	整理・分析, 振り返り ・書いた投書を推敲する。	【言】投書の文章の構成を目的とともに理解し、推敲している。(発言・投書)	実際に新聞に載っている投書の説得の工夫にはどんなものがあるのか、新聞社の方のお話を聞きたいな。	
第二 次	7	課題の設定 ・ゲストティーチャー(新聞社の投書担当であった地域の方や地域の投稿経験者)の話聞き、現時点の投書を見直す際の留意点について考える。	【関】ゲストティーチャーの話を感じを持って聞き、投書を書くことに意欲を持って取り組もうとしている。(発言・ノート)	投書に書く内容は、説得の工夫を取り入れて書くことはもちろん、それを踏まえて自分の意見を書く、つまり、自分はどう考えているかを書くことが大切なんだね。
	自分の意見をより明確にして、説得力のある理由や根拠を挙げて、投書を書き直すことができる。			
	8	情報の収集 ・投書を書く際のポイントや留意点に関わる情報を収集する。	【関】投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方について進んで情報を収集している。(発言・ノート)	地域の防災の取組についての自分の考えを、根拠を明確にしてまとめよう。
9	整理・分析 ・自分の主張と文章構成を考え、説得の工夫を取り入れて下書きを書き、原稿用紙に清書する。	【書】事実と意見を区別し、投書という目的に応じた説得の工夫を行い、文章を書いている。(投書・発表)	読み手を説得するために、ほくは、地域の自主防災組織の会長さんの言葉を引用するから、総合的な学習の時間でインタビューした内容を要約して取り入れるよ。	

10 11	まとめ・創造・表現 ・書いた投書を友達と読み合い、助言を受け、投書を仕上げる。	【読】 書いた投書を読み合い、構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方についてよさを伝え合っている。(発言・投書)	学習の初めに書いた投書と比べてみると、地域の防災の取組のよさや工夫について自分の思いが伝わる投書になったよ。
12	振り返り ・本単元の学びを振り返り、自己の学び方や資質・能力の変容、またこの学びをこれからどのようにつなげていくかを考える。	【関】 本単元での学びを国語科だけでなく他教科や生活に活かそうとしている。(発言・ノート)	どうやったら読み手を説得できるか、効果的な表現の工夫について学んだことを他の場面や他の教科の学びにつなげたいです。
単元後	まとめ・創造・表現（総合的な学習の時間「Let's 防災～今、私たちにできること～」 ・これまでの防災についての学びを整理し、表現する。		

5 本時の目標

- ・4つの投書の読み比べを通し、理由付けの仕方や根拠の挙げ方に着目し、読み手を説得するための工夫を読み取ることができる。 【読むこと イ】

6 本時の展開

	学習活動（時間）	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準（評価方法）
課題の設定	1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。（5分）	◇前時までの学習でまとめた「投書の書き方のポイント」について掲示物で確認し、本時のめあてにつなげる。 ◎説得力のある投書の一つを選び、理由を分かりやすく説明することができる。	
	2 選んだ投書とその理由について自分の考えをノートに書く。（6分）	◇四つの投書それぞれの説得の工夫から納得するものを選ぶようにする。 ◆どの投書を選んだか全体で確認し、友達との意見交流につなげられるようにする。 ◇書き方の例を示し、書く目的を明確にする。 ・私が選んだのは①です。なぜなら、自分の経験を述べるという説得の工夫を取り入れているからです。中学校時代にサッカーをしていた筆者がひざをこわしてしまい、部活動を続けられなくなったと書いてあり、その経験はたくさんの人を納得させることができると思うので、①を選びました。	【思考力・判断力・表現力】 ・新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報をもとに、四つの投書の構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方を比較したり関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書いている。（ノート）
整理・分析	3 友達と交流する。（12分）	◆グループで交流し、自分が選んだ投書のよさや選んだ理由などをさまざまな観点から再確認できるようにし、考えを深めることができるようにする。 ◆児童の求めに応じて、異なった投書を選んだ友達とも交流することができるようにすることで、他の投書のよさを知り、考えを広げることができるようにする。	
まとめ	4 全体で交流する。（12分）	◆友達との交流を通して、自分と友達との考えを比較・整理して感じたことを伝え合うようにする。 ◇これまでの学習で使った掲示物をもとに、発表の内容をつなげながら確認し板書することで、説得の工夫を視覚的に捉えることができるようにする。	
振り返り	5 自己の学びを振り返る。（5分）	◇本時のねらいである「読むこと」や「付けたい力」を意識した振り返りを書けるように視点を明確にする。 ・私は4つの投書の中で、説得力のある投書は①だと思いました。サッカーをやりすぎて、ひざをこわしてしまい、部活動が続けられなくなった経験は、たくさんを読み手を納得させることができると思ったからです。でも、④の投書を選んでいる友達と交流すると、有名な人の言葉を引用するという工夫も説得力があるなあと思いました。〇〇くんが例として出してくれたカーブの鈴木選手の言葉を引用して努力することの大切さを教えてくれたからです。読み手を説得させる工夫はどれもそれぞれのよさがあるとおもしろいなと思いました。どの工夫を使って投書を書くか、次からの時間がとても楽しみです。今日の学習では、自分と友達の考えを比べて考えることができたと思います。	【思考力・判断力・表現力】 ・新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報をもとに、四つの投書の構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方を比較したり関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書いている。（ノート）
課題の設定	6 本時の学びをまとめ、次時の課題を設定する。（5分）	◇振り返りを交流し、本時の学びを資質・能力の視点で価値付け、次時につなげる。	

7 板書計画

